

箕輪城跡

〈みのわじょうあと〉

昭和六十二年二月二十七日 国指定史跡
平成一十七年二月一日 日本百名城選定

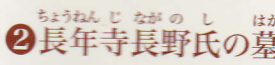
箕輪城跡は榛名山の東南麓に広がる独立丘陵上の中心部に位置し、や城の南側に存在した椿名沼と呼ばれる湿地帯など自然の地形を巧みに利用し、城内で標高の最も高い二八〇mほどの霊置山から御前曲輪、本丸、輪を城の中心軸として、線対称的に多くの曲輪を丘陵上に配している。一部含んだ平山城です。城域面積約三六ha、そのうち国指定史跡において屈指の規模を誇る城郭です。

昭和六十二年に群馬県の戦国時代を代表する城郭跡として国史跡に指定されました。高崎市では平成一〇〜一八年度まで、本丸・二の丸・三の丸・郭馬出など城中枢部を中心に約七〇〇〇mを発掘調査しました。この調査は箕輪城跡を史跡公園として活用するための基礎資料収集を目的として行いました。その結果、最後の井伊直政期を中心に、門跡、石垣、石組の排水溝、土塁、堀、掘立柱建物が見つかっています。特に堀の規模と虎口（出入り口）周囲の残りのよさが特徴であり、そうした特徴をいかした史跡の環境整備・遺構整備に平成二三年度から着手しています。

なお、本城は平成一十七年に「日本百名城（日本城郭協会認定）」に選定されています。



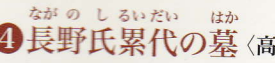
たかめじょうあと
① 鷹留城跡 〈高崎市指定史跡〉
鷹留城跡は明応年間（1492〜築城され、永禄9（1566）年に武までの間、長野氏の居城として構。城跡は南北約430m、東西約内でも有数の大きさです。また、堀残っています。



ちやうねんじながのし はか
② 長年寺長野氏の墓 〈高崎市指定史跡〉（下室田町1380）
長年寺は、鷹留城主長野氏の菩提寺として知られています。現在、ここには初代鷹留城主の長野業尚をはじめ箕輪城主である長野業政など長野氏累代7人を供養するための五輪塔があります。



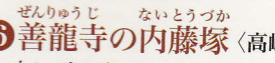
きたあらなみとりであと
③ 北新波砦址 〈群馬県指定史跡〉
15世紀後半から16世紀中頃に築かれた。75m四方のほぼ正方形の砦址です。箕輪城主の長野氏に属する武高崎教育委員会が平成3年として整備し、現在は一般公開されています。



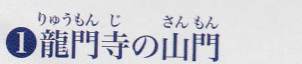
ながのしるいだい はか
④ 長野氏累代の墓 〈高崎市指定史跡〉（浜川町978）
大正12年頃発見され、現在地に整理し安置したものです。至徳元年（1384）から享禄元年（1528）の銘があり、長野氏が浜川を拠点にしていた頃の石塔になります。



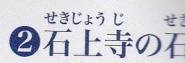
でんみの わじょうしゆながの なりもりの はか
⑤ 伝箕輪城主長野業盛之墓
永禄9（1566）年に箕輪城は落城したといわれています。江戸時代の書に業盛を哀れんだ僧が遺体をもたらされています。



ぜんりゅうじ ないとうづか
⑥ 善龍寺の内藤塚 〈高崎市指定史跡〉（箕郷町生原1430）
寺は武田信玄の箕輪城攻略の際、炎上したと伝えられています。その後、信玄は再築を配下の内藤昌秀（昌豊）に命じ、その子昌月が再建したと伝えられています。父子の五輪塔は寺の南にあり、内藤塚または開基塚と呼ばれています。



りゅうもんじ さんもん
① 龍門寺の山門
〈高崎市指定重要文化財〉（箕郷町東明屋甲22）
箕輪城最後の城主井伊直政が開基した寺で、1796（寛政8）年に再建した唐破風作りの向唐門の山門が残っています。



せきじょうじ せき
② 石上寺の石
〈高崎市指定重要文化財〉（箕郷町東明屋38）
長野氏が祖と傳在原業平の草創にえられ、箕輪城の東寺といわれています。輪廻の塔（延徳3（1491））、六地藏石（文明6年（1474））などの石造物が残っています。

交通案内

電 車：JR 高崎駅下車
群馬バス：高崎駅 西口2番のりば
○箕郷行に乗りして約30分（箕郷本町下車徒歩約20分）
○伊香保温泉行に乗りして約30分（小学校前下車徒歩約15分・東明屋下車徒歩約15分）
自 動 車：関越自動車道前橋ICから11キロ

日本百名城スタンプ

高崎市箕郷支所・箕郷公民館に設置し、城の現地には置いてあり

●高崎市箕郷支所 受付窓口

●高崎市箕郷公民館

箕輪城は城主が代わるなどを契機にして、幾度も造り替えがなされています。そのため、現在の箕輪城は長野氏時代の城とはかなり異なっていて、最後の井伊直政在城当時の姿に最も近いと考えられます。

堀

本丸を巡る幅三〇、四〇m、深さ一〇mの空堀や、城の中央部を南北に分断する役割がある大堀切など、同時代の城としては全国的な規模を誇る堀が城内各所に残っています。一部の堀では部分的な試掘調査を行っていますが、六m以上埋まっていることがわかり、石垣なども発見されています。当時の堀は現況の



① 本丸南堀

石垣

大手門から、本丸へ上がっていくルートにあたる虎頼門・鍛冶曲輪・三の丸・二の丸などには石垣が残っています。その他、郭馬出・御前曲輪西側の堀などにも石垣があります。発掘調査をすると、多くの場所、埋まっていた石垣が発見され、城の主要部のかなりの場所で石垣が使われていたと考えられます。これらの石垣は野面積みと呼ばれる加工をしない河原石を用いたもので、一人では運べない径一mほどの石が使われています。箕輪城内では石が取れない



① 虎頼門の石垣



② 鍛冶曲輪の石垣



③ 御前曲輪西堀の石垣



広域図



ちようじゆんじ
⑦ 長純寺の
ながの なりまさこう
長野業政公の像
〈高崎市指定重要文化財〉
(箕郷町富岡852)

長純寺は、長野氏の開基による菩提寺です。高さ約35cmの業政の木像は開基堂に安置されています。



たかさきじょうし
⑧ 高崎城址(三の丸外圍の土居と堀)

〈高崎市指定史跡〉(高松町5-8ほか)

慶長3(1598)年、井伊直政はかつて和田城があった地に新たに高崎城を築き、箕輪城を移しました。しかし、直政は在城3年で佐和山(滋賀県)へ移り、その後、短い期間に城主が何人も入れ替わりました。元和5(1619)年に安藤重信が5万6600石で入城し、安藤氏が3代77年間にわたり城主を務め、高崎城を完成したといわれています。

現在では、乾櫓、東門、三の丸の堀と土居がわずかに昔の面影をとどめています。

ひかしむきはちまんぐう せきどう
③ 東向八幡宮の石幢

〈高崎市指定重要文化財〉
(箕郷町西明屋4)

東向八幡宮は長野氏が、文明6年(1474)に山城国(京都府)石清水八幡宮より勧請創建し、箕輪城総鎮守として祀られたと伝わっています。本殿北側に石幢(文明6年銘)があります。



きゆうしも だていしゅいんおよ ていえん
④ 旧下田邸書院及び庭園

〈群馬県指定重要文化財〉
(箕郷町西明屋702-2)

旧下田邸書院及び庭園は、長野氏の重臣であった下田正勝の



本丸周辺では発掘調査によって、縄張りが大きく変わりました。

1期—長野氏・武田氏時代の頃

現本丸南東側と北西側に堀(1号堀・2号堀)

2期—北条氏時代を中心とした時期

本丸堀と呼ばれている本丸の南東側が掘られ、2号堀が埋められ、新たに3号堀

3期—徳川氏時代を中心とした時期

3号堀が埋められ、本丸と御前曲輪間の堀

以上のことから、現在見える縄張は、最後の徳川氏時代の縄張りです。長野氏時代に比べて大きく造り替えられていることがわかります。

1期



2期



出土品

発掘調査の出土遺物の大部分は土器になります。として主に宴会などで用いられた素焼きの皿であることが出土しています。さらに、かわらけの中には北条氏の時代にもたらされた「手づくねかわらけ」が6点含まれ、北条氏時代における小田原との関わりが想定されます。

その他、主に中国から輸入された陶磁器や瀬戸(愛知県)で焼かれた陶器などは、県内の城館跡の中では最も多く、中でも、関ヶ原の戦い以前の城郭では関東では初めに用いられた軟質施釉陶器が出土しており、箕輪城の縄張りを知ることができます。

戦乱を物語る遺物として、鉄鍬や鉄砲玉なども出土しています。

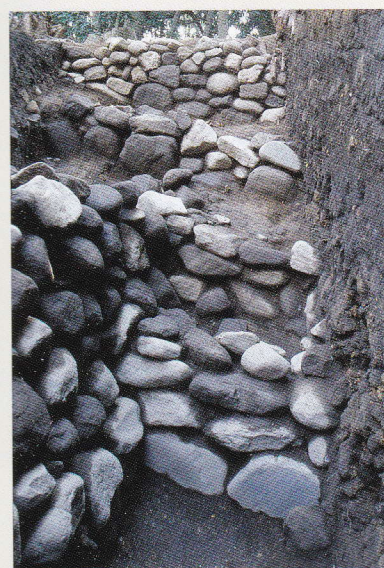
そのほか、硯、石塔、銭などの豊富な出土遺物は当時の武士の生活や文化を知る大きな手がかりとなります。



関東地方の城郭は江戸時代に入ると、江戸城など一部の城郭では四mを超えるような高石垣が用いられていますが、それ以前では豊田秀吉が築いた石垣山城（神奈川県小田原市）など限られた城でしか確認されていません。箕輪城が北関東の要の城にふさわしい形で改修されたことがこの石垣からうかがえます。



で、一人で運べるくらいの石を用いるなど、城最終時期の石垣と比較すると大きな相違があります。同様な特徴を持つ石垣が北条氏邦が城主を兼任していた鉢形城跡（埼玉県寄居町）でも見つかっています。



箕輪城の歴史

西暦二五〇〇年前後に長野氏が築城しました。後の系図によると、業尚、憲業、業政、業盛の四代が箕輪城を本拠にしていたと考えられています。ただし、近年の研究では、方業→業正（業政）→氏業（業盛）と変遷したことが指摘されています。また、業尚や憲業は鷹留城（高崎市下室田町）を築城した長野氏の一族ではないかという指摘もなされています。

長野氏は武田氏の西上野侵攻に際して、この箕輪城

を本拠にして最後まで抵抗しましたが、永禄九年（二五六六）に難攻不落だった箕輪城もついに武田信玄に落とされました。

その後は、武田氏、織田氏、北条氏、徳川氏と次々と主が代わりましたが、その度に各大名の有力家臣が配置されています。特に最後の城主井伊直政は、徳川家康の家臣の中では最大石高の二万石で封じられています。その八年後の慶長三年（二五九八）、井伊直政は城を高崎に移し、箕輪城は廃城になりました。

※榛名町誌刊行委員会『榛名町誌通史編上巻』（二〇一）

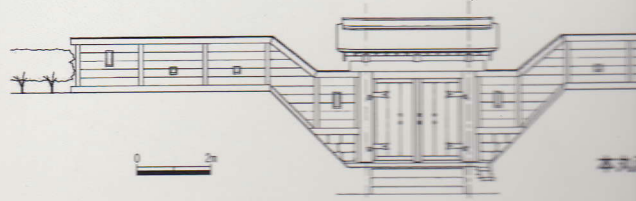
年代	箕輪城主	主な出来事
1454年 (享徳3) 1482年 (文明14)		きょうとく 享徳の乱で関東地方が戦国時代へ。
1500年頃		この頃、箕輪城築城。
1524年 (大永4)	（長野業政など）	箕輪の長野方業が総社城主長尾顕景を攻める。この年までに箕輪城は築城されている。
1552年 (天文21)		関東管領上杉憲政、北条氏に攻められ、平井城（藤岡市）を追われる。
1560年 (永禄3)		桶狭間の戦い（織田信長、今川義元を破る。）
1561年 (永禄4)		この頃から、武田信玄が西上野に出兵する。
1566年 (永禄9)		武田信玄、箕輪城を落とす。
1573年 (天正元)	（内藤昌秀など）	室町幕府滅亡（信長、足利義昭を追放する。）
1575年 (天正3)	武田	長篠の戦い（信長・徳川家康が、武田勝頼を破る。）
1582年 (天正10)	（滝川）	信長重臣の滝川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主に。
1585年 (天正13)	（北条氏邦など）	信長、武田氏を滅ぼす。本能寺の変（信長死す。）
1590年 (天正18)	北条	豊臣秀吉、四国平定。秀吉、関白に。
1598年 (慶長3)	（井伊直政）	家康家臣中最高石高の12万石で、井伊直政が箕輪城主に。
	徳川	秀吉、北条氏を滅ぼし、天下統一。
		直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に。秀吉死去。

⑤ 御前曲輪西虎口

通仲曲輪から御前曲輪へ渡った場所の虎口部分で門跡を確認しました。礎石は全部で六石あり、その配置から主柱二本を前後四本の控柱で支える四脚門と推測されます。幅三・一m、奥行三・一mの規模になります。門の屋根根から落ちる雨水を受けるための溝には一五六個の石塔の部材が用いられています。



す。本丸に入る三か所の虎口のうち、唯一木橋を渡ってはいえる虎口で、間口（扉部分の幅）については本丸の中で最大です。全国に現存する城門や城絵図を分析し、下図のように考証されました。今後、この門を復元していく計画になっています。



⑥ 大堀切土

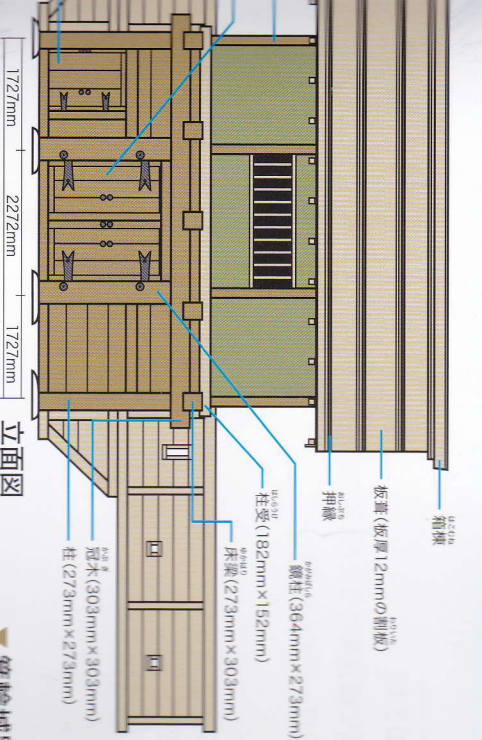
箕輪城を南北でも城の主要部としています。この部では土留めの



⑦ 大堀切西

堀に直交し砂堀底付近で確認以上堀が埋まつ





立面図

▼ 箕輪城跡略年表

年代	箕輪城城主	主な出来事
1500年頃	長野氏 (長野業政 (正) など)	この頃、箕輪城築城
1566年 (永禄9)	武田氏 (内藤昌秀 など)	武田信玄、箕輪城を落とす
1582年 (天正10)	織田氏 (滝川一益)	信長重臣の滝川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主に
1590年 (天正18)	北条氏 (北条氏邦)	徳川家康家臣では最高石高の12万石で井伊直政が箕輪城城主に
1598年 (慶長3)	徳川氏 (井伊直政)	井伊直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に

国指定史跡
日本百名城
箕輪城跡

かく うま だし にし こ ぐち もん よみがえる郭馬出西虎口門

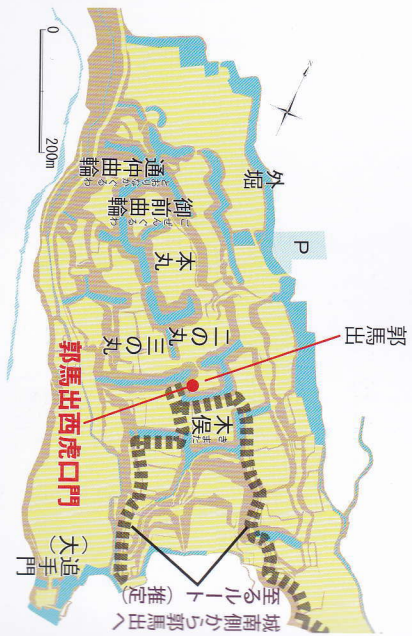


【郭馬出西虎口門のご利用案内】
箕輪城跡の一角にあります。大扉が開いていきますので、自由に門を通り抜けることができます。

【発行・お問い合わせ】
高崎市教育委員会文化財保護課 (Tel: 027-321-1292)
平成28年11月発行

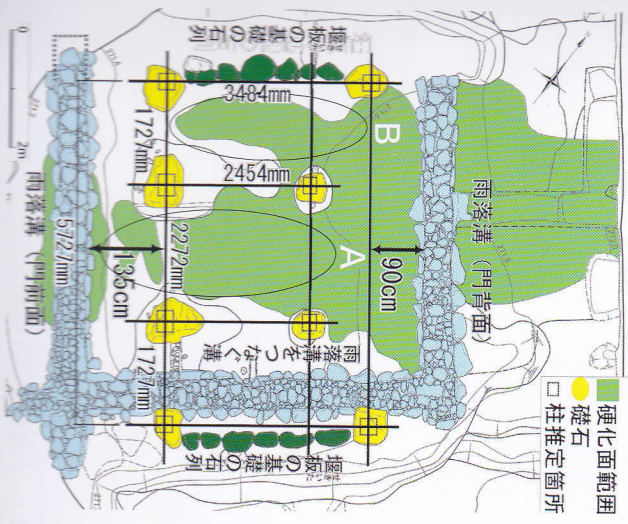
昭和62年12月17日 国指定史跡 / 平成28年11月 郭馬出西虎口門完成

西側の出入口(虎口)の礎石が8石確認された好条件に加えて、各にして、門の建物構造



復元整備の工程

伝統的工法で復元を行うため、多くの工程がありました
(2014年6月～2016年6月)



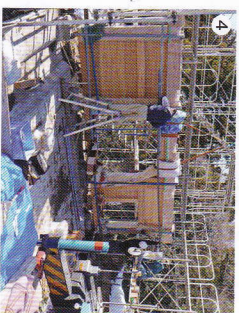
1 検出された遺構を砂で保護する。



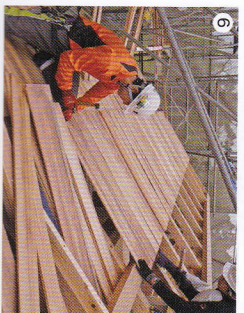
2 内冠木や2階の梁に用いられたマツ材は手斧で仕上げる。



3 礎石上面の形状に合うように、柱を何度



4 慎重に柱を立て、組み上げる。



5 礎石上面の形状に合うように、柱を何度

6 慎重に柱を立て、組み上げる。